



とがみ

「やさしく かしこく たくましく」

山形市立滝山小学校

第15号
令和4年11月15日

発行：校長 吉田健志
山形市小立4-13-86

「10000時間の法則」 11/1 校長講話④

『SLAM DUNK』の主人公桜木花道がまだ初心者だった頃、花道を秘密兵器にすべく安西先生から、秘密の特訓を課せられます。「1週間でシュート20000本」です。何とか実行し、試合で見事にジャンプシュートを決めるシーンは、印象的でした。とことん集中してやることで壁を乗り越えることができるということを感じた話でした。

これはマンガの話ですが、実際の世界でも似たようなことがあります。それが、「10000時間の法則」です。これは、マルコム・グラッドウィル著、勝間和代訳の『天才！成功する人の法則』の第2章に、具体的な例として2組の話が出てきます。ザ・ビートルズとビル・ゲイツです。

ザ・ビートルズは、たった10年間の活動期間で、数え切れないほどの名曲を作り出したバンドです。スーパースターになったのは結成から約4年だそうです。この4人の若者には、もちろん才能はあったのでしょうか。でも、その才能を「天才」までに開花させたのは、時間だったのです。結成したばかりの4人は、言葉も違うドイツのハンブルグのクラブでひたすら演奏し続けました。ライブは長いときで8時間ぶっ続けでやったそうです。練習や曲作りなども含めると1日8時間以上、毎日休まずにバンドで演奏したことになります。



【1日 8時間×365日×4年=11,680時間】

一方、マイクロソフト社を創設したビル・ゲイツ。私立中学2年の時に学校にコンピュータークラブができ、「その日から、ゲイツはコンピュータールームで暮らした。」好機の連続にも恵まれて、「ハーバード大学を2年で中退するまで、ゲイツは7年間ぶっ続けでプログラムの開発に取り組んでいた。とっくに1万時間を超えていた。」とありました。

本から離れますが、私の身近なものでも「10000時間の法則」は起こっていました。私は大学までずっとバスケットボールをしていました。一番熱中していたのは高校時代でしょう。でも、勝とうとして取り組んだものの、決して勝てなかった相手がいました。それが、日大山形高です。当時の日大山形高は「一流」でした。何しろ、全国大会で優勝するのですから。私の高校の監督はよく言いました。「練習時間は短くても、勝てます。」と。しかし、結局一度も勝てませんでした。そこで、当時の私と日大山形高の選手のバスケットボールにかけた時間を比較してみました。

【私：大学4年までで4234時間…1万時間の半分以下 ※細かい計算は省略】

【日大山形高の選手（想像）：大学1年生くらいまでに10000時間超え】

自分が一流になれなかったのは、それだけの時間をかけなかったからかもしれません。

10000時間とは、偉大さを示す
マジック・ナンバー(まほうの数字)

1.はじめるのが早い方がよい

成長できる時期 7歳から20歳 体・脳が発達

2.集中する時期が必要

急速に発達

3.「かんきょう」が大事

すきになる、つづけられる、よいコーチ



さて、滝山小のみなさんは、まだ若いです。何か夢に向かおうとするとき、10000時間とことんやれば夢が叶うかもしれません。その時間は十分にあります。でも、10000時間やり続けること自体なかなか難しいものです。本にはコツについて書いてありました。まとめると5つです。

- ①好きになること ②仲間と一緒にすること ③習慣にすること
- ④記録すること ⑤人に話すこと (いわゆる「有言実行」につながります)

きっと、我らの一流の先輩、荒井良二さんや加藤条治さんも「10000時間の法則」に当てはまるのではないかと思います。

さあ、「10000時間の法則」で何かを成し遂げる人が、この滝山小から登場するでしょうか。とても楽しみです。

“コロナに負けず” 校外学習

①ひまわり1組 11/7

生活単元学習で取り組んできた「バスに乗ってでかけよう」の本番として、山交バスに乗って山交ビルのセリアで買い物を行ってきました。学習してきた通り上手にバスに乗り到着。買おうとしていた品物がなくて小さなハプニングになりましたが、何とか買い物を終え、第2公園のSLを見学して、学校に到着。ミニ冒険の終了です。



②スーパー見学 (3年生)

11/10



社会科の「店で働く人」の現地学習として、フードセンターたかき南原店で見学をさせていただきました。店内の工夫を知ったり、普段は見ることのできないバックヤードの秘密を教えてくださいまして、店で働く人々について学習を深めてきました。

③2年生遠足「千歳山登山」

11/11

2日に予定していた遠足が延期となりましたが、11日に実施することができました。

千歳稻荷神社入り口から出発し、岩五郎コースを通って頂上へ。頂上へ着くと思わず万歳です。下山後は、千歳山こんにやくを食べて、山形の秋を満喫しました。



★本物の体験は、座学の何倍もの学びがあります。コロナの感染が続いていますが、十分に気をつけながら、本物に学べる機会をこれからもしっかりとっていきたいと思います。